七偏上
七偏上
へ13
3016
13
へ13
3016
14

七福と
へ13
3016
13

へ13
3016
13

七福人

板元馬喰町二丁目
錦耕堂山口屋藤兵衛

我朝戯作の嚆矢創と唱へ源氏物語に此系式部が筆ぜまさびしきまと雨夜の品定ゆへ女子の身七人情と書ちくり夕貞の浮氣心ゆへ化物出で怖ろ御息所の意地張ゆへ盛場で車引ゆへ毒母紫のうへの才能に恪氣と嗜せ猫掻きでゝ女三の宮ゆへ恋路に油断故髪を切らせて是と戒め宇治十帖に至まで茶ゆゑ浮さ趣ゆく婦女を諭せ文章ゆゑ彼書の玉葛ゆゑ音の難ゆ似若草觀音利生の筋ゆ替ど通夜い鞍馬の暗まぎれ禍変ゆて幸と成ゆ佛の智方便神通力も竜口の長谷乃畸童ゆ飼ふ牛に引出したるやぐ竹是も一節編を延して千代の春けゆ慰草ゆ見あるゆ色と章拳うあん

ようこびあぐ
ろりのゝ春

緑亭川柳述

秋ふかみ
ゆきてしうつり番を
あるる涙は我こゝろ
かくしみふのとる色ぶふも
うせて思ひのまさるなれ
るくこの世の中はうきふ
つむはまぬよのたゝ
さえよりとゝ見ぬく
この月いあんと
るるべき

秋風
かき鳴ら
琴は変
ちる鳥く人の
こゝろ
かるらん

六へんのつゞき

つぎ　ちりまぎれの
みつきをあきけるの
かとたんまとび
一あのぐそうみつきを
あけるやどりくる
たまくそーき
あさうなふてりと
そものさむけきさま
るどあらまこって
やがて山ごりの日
うぐもんそるんこり
てそまあるべくと
とこそをのそーたち
つとるまけりかそそー
こういころづきそ
山ごりのあけの日
うぐたくきこへねん
あのはこれをそぶ
らひつろひのりめを
かくこのこそこふたそまつり
きあここるどあやおくり
山どりのそりしもわもこれを
ろどにかろヌ立ろりのぐるこて
のとなとあこれこそれくふ
きあるぐこをおろけれ
べりろこぶこひとろこ

の左のしたの　あきこる
きそここれもよる
べるくのあこれが
人をきとくこ
ちくこうこ

つぎの次ときこ

こうふあふこのこふかこ
山さここふひとりの
をきるありここれ
田をつろたころこき
のこせーぐをてあひてい
さやるこどもせま
ろとけのこちをこふ
とこあけのまとわぶろ
のここるをてこふまり
ることをせぶりしが
ある日十七ばかりの
ここぐひとりきそ
これいやきこんせの
りのそ千松と
ひここ子ひそこぐ
まぐこふあきてぬ
れとらあこ

あきこのへとりこて
こうわつぎこり
しもあきこの
きここどうゆや
こぐしつくこ木の
こををこきちこて
けるをあきこる
これをたそこるぐ
ばれ木のこのちる
をこるわ
人のこ
これこり
なるい
こここぐこて
こあくころと
ここ一ろどふ
ちこぐて
こりあきこ
あをきころく
こまこるおここ
きここの風ものも
ちこくこも見
こぐ刈これこ
ゆこ今むこちよ
おこりころここ
ちこくへんど

川柳作 豊國画

つぎき

のりくーあやをうしろひあてうりふのりだまを
あまもるくあきまそあせれどせんうさうく
あのうちのゐをうしろひそのようひぐふも五月も
いうぐハせんとありふうちまねをうるゆをう
ろけひんせんのとたのうーふうさのりのらけうれ
ろいきうまうくるくるうりかーとスのうやとらひりるふ
あんもゆらんとひんせーふうりーもあしうせよく
ふぜんのうふはきふけう五ちけもひくふも
くぶふあうれとまとてのたくくもうくらへふかう
べきうぐそもできぐを五ちけいきうとちあんを
きうらめあううこうをうををひき田ちこのこりをあすりのよ
うとうーそのまうこううのせふをのちそ
こぶくふちくくかりうるかのびくゆいまぐこゆも
にぬーまうふたぐひてうろ州を四人女ふ
うらんとみちびきーむうひくあの見が
ろうとうら見ううとをこりのて一ちうう
ろーむとうんぐうてきめんのぐうう
ろぐーくてまうぐー

神傳秘方 油藥 祖香

一貫代 四十八銅 二十四銅

錦耕堂製

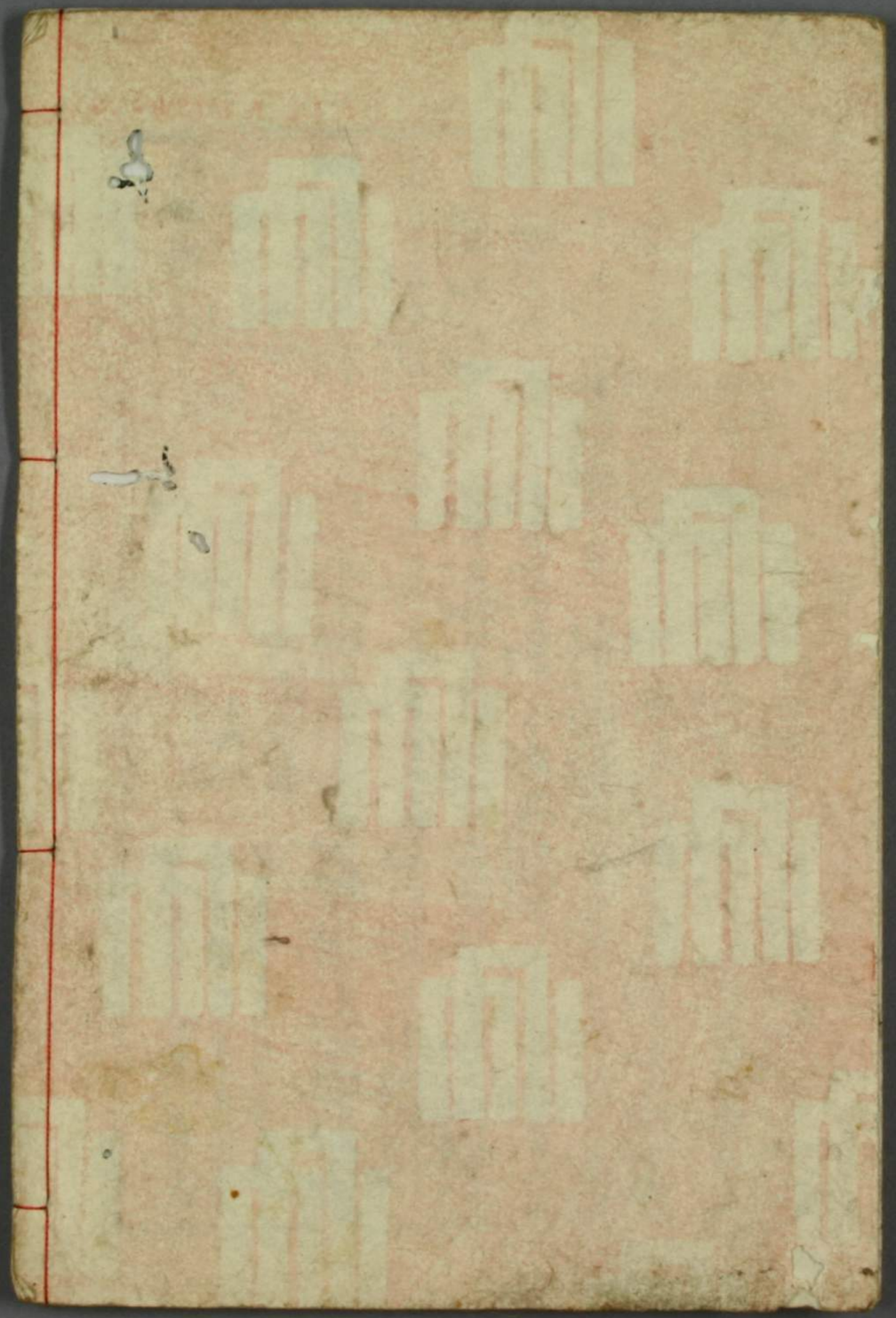
婦人さん陰ゴ人の病ます一

抑此藥の根本ハ武ます るの頃ハ建武五年中 楠正成公度 この合戦の折ゴ手負場 ゴ手負

お夫人ゴ ちろり 流ゴ 女ハ馬 のひづめふ 殘ら 五ゴ 兄上ふ 苦ー ゴ 甚 難渋 甚ー

ゆ ゴ 正成 見 ゴ 九 ゴ 仁ハ 深 ゴ 不 ゴ ゴ ゴ 不便ふ思 ゴ ゴ 士 ゴ 卒の 男ハ 則 武 男 ゴ

ゴ ゴ ゴ



東海道

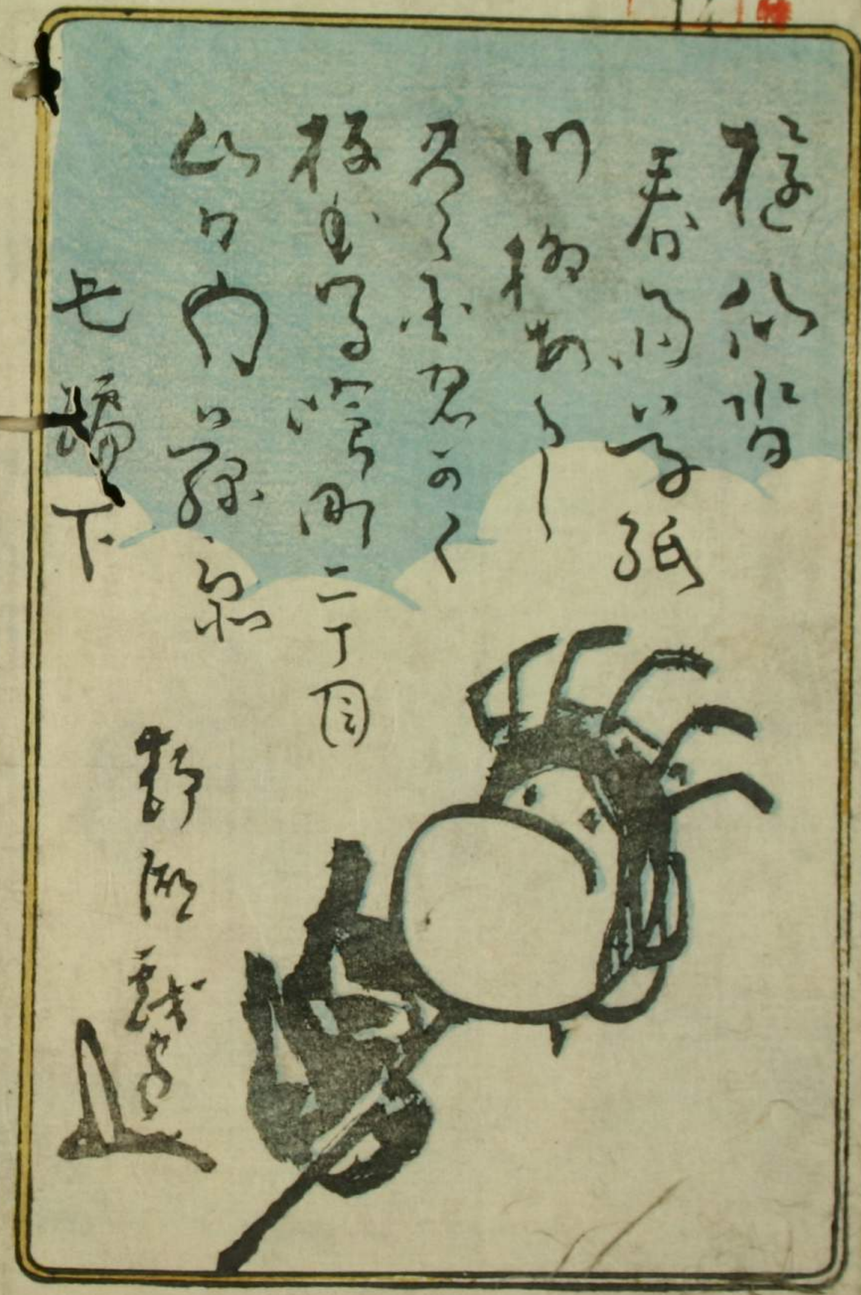
七編下

一陽斎豊国

歌麿画

へ13
3016
14

へ13
3016
17



西

春雨文七
十五
十六

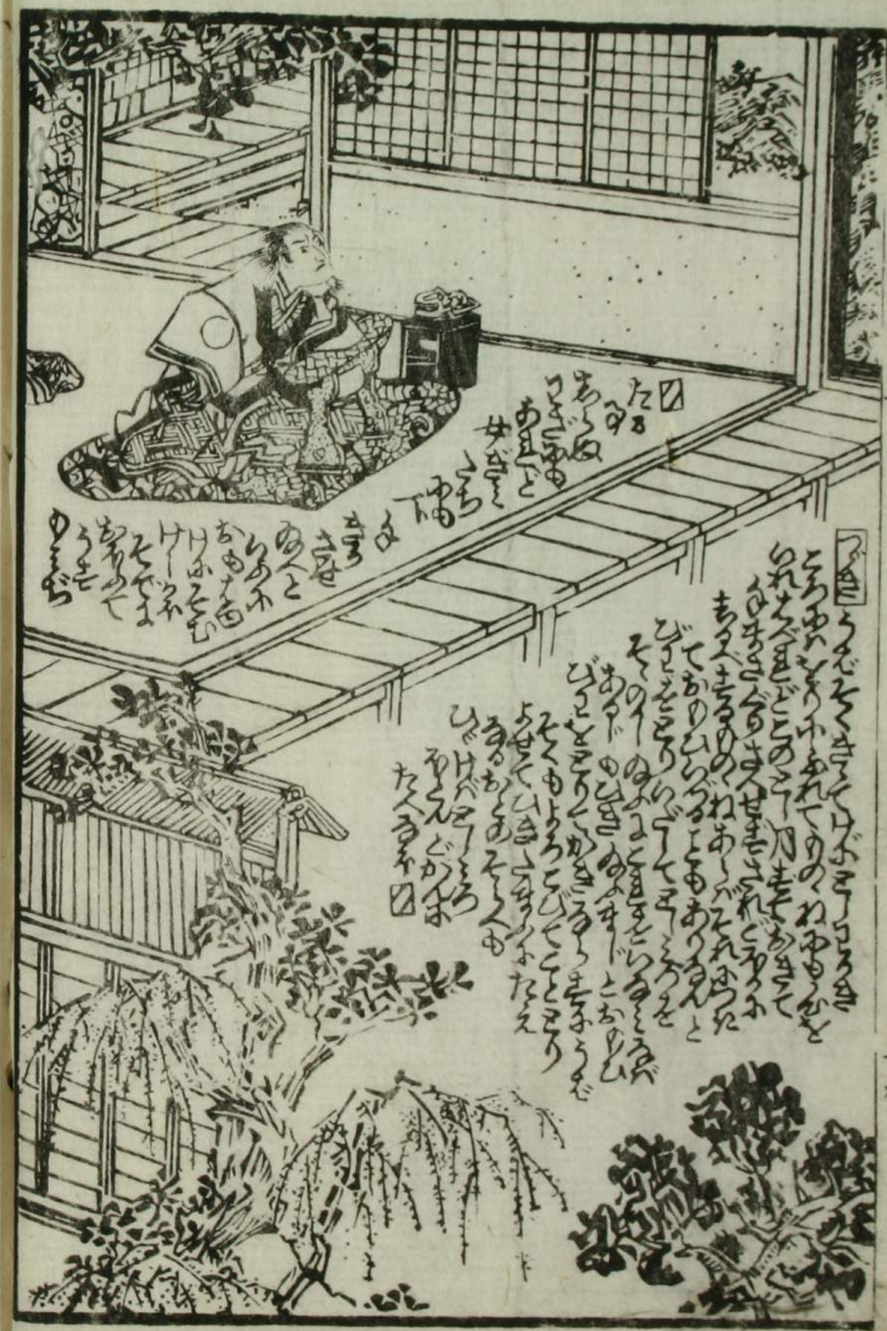
つぎ二人のものどもそれからこれらぶあとせーひさごこれへ久しくてあられとりいとをもさらふきろぬ手ちらん八えろさきものをりけれが二人のものどもらきゆきそひさごをなりふこらんとまるとをどう六らろてつきたりまきまくおのれらぬをんろうんをとたちさらまれぬわのりんをんとりへいをとれるれたくこちぬすんとれおのをとらるりとちらのさりをぬまくてくう

左の上

けんろるのやうまいあるねどもそうえうこれらはるさまよさくうのたろのいあまるまるめんどうゆもまるくあるらんとさいなんまれがよきまれとそれはまろせてあづはれがやこう平大きろよろとびてらるまもみをへちびがえそめまくゆそれんともるへかくもひあげそのうくゆてるうをるはせいまるーとーてかをらうてたのまんてまんそうせいきのとさゆうへとりるひゆてとふたりさけうるいふはまそゆく

○こてはるあちせんのうくふちえうのたろふさとらん人ありてとーどろふうふゆまいまくあんせどみナさうのはあらぶまるてひとりもるるけとたまるのいりとを子としてやーるひけるはゆるまりてはのらはまくのねのやとりはありてまくゆもつるまいたーろるくあゆひ子のるきこをうまとしてかものやーろくまをいをかけるはとそ子をひとりさるけゆられとかのやーろはりうるるりひさくくある日らるものこくえけりとうらけかさうらのあるげはるぶひっ一ツ

へいさあ女さあ人ことめくとうつのりめんどうるうとぐうえ八さう六ものかれいとるさゆるれのあのまとらとらるれまけんらうとふるーのたうんあんたうしふちをらぬまうとふうりんづすんどうるるをとうるるアうまはるるけうるるさとうるるをけてアとこるるうーあるさるるる



嘉永二年己酉孟春新板目録

遊仙窟春雨草紙 六編八七編 緑亭川柳作 一陽齋豊國画

秀雅百人一首 袋入 緑亭川柳輯 一冊 諸画工集筆

列女百人一首 袋入 緑亭川柳輯 葛飾卍老人画 一冊 一陽齋豊國画

新編樽 全二冊々 初編より九編に出来 餘編近刻

英雄百人一首 袋入 緑亭川柳輯 一冊 五雲亭貞秀画

東都書肆 版元 馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛